

今後の事業予定

○1月、2月は、「メデイカルヨガ教室」をはじめ公民館事業は、積雪が予想されるためお休みとします!



今年の漢字は「金」

師走の風物詩となりました、今年の漢字は「金」に決定しました。これは、日本能力検定協会がその年の世相を表す漢字ひと文字を一般から募集し、最も多かった漢字が選ばれるものです。

この漢字が選ばれたのは、やはり東京オリンピック・パラリンピックで、日本人選手が過去最多の金メダルを獲得したことや、大谷翔平選手が大リーグMVPを受賞したことなど各界で多くの金字塔が打ち立てられたことが理由のようです。

2021年

金

今年の漢字

照来の歴史(32) ～疑問2～『くぐり池と多鯰ヶ池』

照来地区公民館だより第58号で紹介した多子の「くぐり池」は、鳥取の「多鯰ヶ池」とつながっているという伝説ですが、もちろんつながってはいません。「くぐり池」は標高約360m、「多鯰ヶ池」は海拔約16mで、かなりの標高差がありますから。しかし、なぜ「多鯰ヶ池」とつながったという伝説なのでしょう？多子の戴上栄子さんからいただいた資料によると、同じような伝説が鳥取にもありました。それは、多鯰ヶ池の「お種伝説」で、次のようなお話です。 ※多鯰ヶ池（たねがいけ）

昔、宮ノ下（鳥取市国府町）に伊藤土屋という長者がすんでいました。この長者の家に細川（鳥取市福部町）からお種という女中が住み込んでいました。この家には、大勢の女中や下男が奉公していて、夜になると、食べ物の話に花を咲かせていました。

ある秋の夜、お種がどこからか、とても甘い柿を持ってきました。みなどは口々に「うまい、うまい」といって食べたが、食べ終わると「お種さん。こんな甘い柿を、いったいどこからとってくるんだいな」とたずねました。

しかし、お種は何も言わず、そのあくる日も、またそのあくる日も、甘い柿を持って帰りました。

そこである日、下男が三人、お種の後を見え隠れにつけていききました。お種はスタスタと浜坂砂丘を歩いて、池端にたどりつきました。

下男たちが木かげで見ていると、お種はへびになって池を泳ぎ、中ノ島の柿の木にスルスルとのぼりました。

そこには、赤く熟した柿が鈴なりに実っていました。お種は、この柿をとっていたのです。しかし、自分の正体を見られたお種は、それぎり長者の家には帰って来ず、そのまま多鯰ヶ池の主になってしまつたと伝えられています。



二つの伝説の共通点は、「お種」という娘が登場すること。そして「お種」は、「くぐり池伝説」では西の方（鳥取方面）から奉公に来たとあり、「お種伝説」では鳥取の福部町から来たことになっています。また、どちらも池に身を投げたということ。そして「お種」が柿を「多鯰ヶ池」から採って来て振る舞っていたこと。など話しが非常によく似ています。

それでは、どちらの伝説が先にできたのでしょうか？「くぐり池伝説」は江戸時代文化年間（1804年～1818年）の話で、「お種伝説」も江戸時代後期だということですから、同じような時代にできたことになりました。また、「くぐり池」の傍には「お種」の供養塔が文化13年（1816年）に建てられています。そして、「多鯰ヶ池」には、年代はわかりませんが「お種」を祀った「お種社」があります。

こうした供養塔等が建てられていることから、事実をもとに作られた伝説のような気がします。そうすると「お種」は同一人物ではない？二つの伝説は別もの？疑問です。

「多鯰ヶ池」のことを調べてみると、「多鯰ヶ池」という名前は、「お種」からきているようで、最初は「種ヶ池」だったということです。これは関係ありませんが、「多子」「多鯰ヶ池」どちらも「多」がつく。

ななむゐ

第78号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和3年12月1日現在

世帯数 520世帯

人口 1,439人

(男675人、女764人)

今年もコロナに翻弄された1年でした!

光陰矢のごとしといいますが、本当にあっという間に今年一年も過ぎ去ろうとしています。

今年もコロナに翻弄された一年となりましたが、照来地区の皆さまには、照来地区公民館事業の推進に格別のご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

上半期は、新型コロナウイルスの影響でできない事業も多くありましたが、下半期になるとコロナも少し落ち着いてきたこともあり、「照来の小さな文化祭」を開催することができました。何と言っても出展いただいた皆さん、照来小学校の児童・先生方、そして照来地区の皆さんの協力があってからこそだと思います。重ねてお礼申し上げます。

また、今年には照来小学校がコミュニティスクールのモデル校に指定されていることもあり、照来小学校と地域の皆様との交流事業がたくさんできたことも大きな成果かなと思います。

今後、皆さまのご意見をいただきながらより良い公民館にしてまいりたいと思いますので、ご指導よろしくお願いいたします。

来年、皆さまにとりましてすばらしい年になりますようご祈念申し上げます、この一年のお礼とさせていただきます。



「SDGs（持続可能な開発目標）」

11月24日（水）但馬公民館等連絡会地区別研修会が香美町立香住文化会館で開催されました。内容は、

SDGsについての研修会で、SDGsカードゲームを体験しました。このゲームは、各班に分かれて持続可能な開発目標を達成するというものですが、結局、自分のところの班だけが達成すればいいのではなく、各班協力しながら全ての班が達成しなければならぬというものでした。

皆さん「SDGs」という言葉は、少なからず耳にしたことがあると思いますが、内容まで詳しく知っている方は少ないのではないだろうか。私も17の目標があることは知っていますが、全て言えといわれれば答えられません。

「SDGs」とは「持続可能な開発目標」で、2015年に国連で採択された、全世界で達成を目指すものです。現在、世界は貧困・温室効果ガスなどに起因する地球温暖化、人種やジェンダーによる性別差別などさまざまな問題を抱えています。これらを解決するために、全員で知恵を絞り協力していこうというものです。

私が今一番気になっているのが、13番目の目標である「気候変動に具体的な対策を」です。

先日、テレビを見てみると陸奥で海に浸かってスピーチをする南太平洋の島国ツバルの外務大臣が、気候変動の緊急性を訴えています。ツバルは、海抜が低く、地球温暖化の影響を最も大きく受けている国の一つで、海面上昇による水没の危機にさらされています。この状況を伝えるために、スーツとネクタイ姿のサイモン・コフエ外相は、ズボンの裾を膝までまくり上げた状態で海の中の演台に立ち、「私たちは気候変動と海面上昇の現実の中で生きています」と各国のリーダーに訴えたのです。



これは他所の国の問題ではありません。地球温暖化の影響は、今、我々の身近でも起こっているからです。それは、何と言っても異常気象によるゲリラ豪雨等で災害が多く発生していることです。また、気温の上昇により農作物への影響が出ています。南の地域にしかいなかったイノシシやシカが北の地域へ移動してきています。まだまだ数えきれないほどの影響が出ています。

皆さん、私も含めてですが今一度地球温暖化対策として、節電や車の排気ガス等の温室効果ガスを少しでも出さない取り組みをしましょう。

13 気候変動に
具体的な対策を

